小學脩身課書

南摩綱紀編

一

271
4
108

K110.1
188b

南摩綱紀編

小學脩身課書

明治十五年四月
廿五日版權免許

中外堂藏版

文部大書記官辻新次公題辭

元亨

言忠信
行篤敬

仁和邱新書

中外堂藏版

序

世有雖多不厭者。豐年之穀與教訓之書是也。穀多則價賤。得以養貧人。書多則教洽。得以喻愚人。國之所最病者。在民之貧愚而已。

療之之良劑。莫若讀其書焉。然
讀也天造。非人之所能為。甚可貴
者。邵氏書耳。友人南摩君。與余
講究修身之學。數年。其餘力
溢為此書。余知其為有益於世教也。

或人疑近百著書之言。所之者
甚多。又之其得無屋頭架屋之
類乎。余曰。世之著修身之書者。
言之矣。行於躬則或未也。美君彤
能行之者。與其感人之原。蓋吾輩

言語之外者焉。況爲訓之書不嚴
之而乎。或人全身退。偶書肆中外
重屬此書。常存。因錄其言以附之。
明治壬午四月泊翁道人西村茂
樹識

西村蔵書

小學脩身課書

緒言

一此書ハ和漢ノ經史及ビ雜書中ニ就テ。脩身ニ關スル嘉言善行ヲ摘採ス。

一或ハ原文ヲ隱括シ。或ハ意ヲ取テ辭ヲ略シ。或ハ長ヲ縮メテ短クシ。或ハ一章ヲ分チテ數章ト爲スモノアリ。其漢文ノ如キハ。皆假字ヲ雜ヘテ。コ

レヲ譯記ス。

一　毎章摘採スル所ノ書名ヲ掲ゲテ。其出處ヲ示ス。中ニ就テ。書名ヲ掲ゲザルモノハ。諸書ヨリ混採シテ。唯其意ヲ記スルモノニ係ル之ヲ要スルニ。皆余ガ私言ニ非ザルナリ。

明治十五年四月　編者識

東京帝國大學圖書之印

小學修身課書卷一

初等一年後期

南摩綱紀編

天子より庶人に至るまで。みな身を修るを以て本と爲す。大學

○身を修るい。五倫五常の道

を身に行ふにあり。

○父子親あり。

君臣義あり。

夫婦別あり。

長幼序あり。

朋友信あり。孟子

これを五倫といふ。

親といい親み愛するなり。

義といい宜しき筋に從ひて

行ふなり。

別といい夫と婦との行ひ自

ら差別あり。愛に狎れて踰

えざるをいふ。

序とい先後の順序あるを

いふ。

信とい誠實にして偽りな

きをいふ。

○仁義禮智信。

これを五常といふ。

人の性にして。萬善の根源な

り。五常訓

仁い人を愛し。物を憐むな

り。

義い宜しきに從ひて。事を

處するなり。
禮い次序品節あるなり。
智い善惡を知り分くるなり。
右を四德といふ。
信い右の四德の實にあるをいふ。
○五常の外に心なく。五倫の外に道なし。五常訓
○子弟たる者い。能く孝弟を盡すべし。
孝とい善く父母に事ふる

なり。

弟とい善く兄長に事ふるをいふ。

○孝い德の本なり。

教の由りて生ずる所なり。孝經

○愛と敬とい。孝弟を行ふの主なり。

○愛い親より始む。

敬い長より始む。禮記

○父母を愛敬するを第一とす。

次に兄弟一族を愛敬すべし。

其次にい他人を愛敬すべ一。」
りれより推して。禽獸草木を
愛すべ一。五常訓

○父母に事ふるい温和を主
とす。家道訓

○父母の命にい違ふべから

ず。禮記

○父母の教誡に從ひて。怒り
恨むべからず。同

○君子い本を務む。孝弟い仁
を爲すの本なり。論語

○出入する時い。必す父母に

告ぐべし。禮記

○父母在せば遠く遊ばず。遊ぶこと必ず方あり。論語

○朝と夜とい必ず安否を伺ふべし。禮記

○父母に事ふるに。冬は温かにし。夏は涼しくす。同

○父母愛すれば喜びて忘るべからず。同

○父母惡むとも懼れて怨むべからず。同

○身體を傷つけざるい。孝の

始なり。孝經

○名を揚げて父母を顯すは。孝の終なり。同

○君子は親に孝なり。故に移して君に忠すべし。孝經

○兄に順なり。故に移して長に弟すべし。同

○孝は親を寧んずるより大なるはなし。揚子

○高き處に登るべからず。小學

○深き淵に臨むべからず。同

○父に非れば生れず。

師に非れば知らず。
故に父師に事ふること。一の
如くすべし。國語
○君にい忠を盡して我身を
忘るべし。初學訓
○徐に行きて長者に後るこ

れを弟といふ。孟子
○疾く行きて長者に先たつ。
これを不弟といふ。同
○已より年の倍長ぞる人に
は父として事ふべし。
十年長ずる人には兄として

事ふべし。

五年長ずる人には。並び行きて稍々後るべし。禮記

○長者の賜ふ物い辭退すべからず。同

○己に如かざる者を友とすること勿れ。論語

○文を以て友を會し。友を以て仁を輔く。同上

○善を責るい朋友の道なり。孟子

○居處い必ず恭しくせ。

歩立い必ず正しくす。
視聽い必ず端しくす。
言語い必ず謹しむ。
容貌い必ず莊ます。程董學則
○途に長者に遇はゞ必ず敬禮すべし。禮記

○玉琢かざれゞ器を成さず。人學ばざれゞ道を知らず。同
○時過ぎて後に學べゞ苦みて成り難し。同
○獨り學びて友なければ孤陋にして見聞寡し。同

○人の德義と才智を益すい。學問にあり。

○學問い山に登るが如し。怠れば日日に下る。靜寄語録

○大人の學い道の爲にす。小人の學い利の爲にす。楊子

○千里の行は足下に始む。老子

○書は熟讀せざれば。用に立ち難し。省僧録

○書を讀むい精熟を貴びて。多を貪るを貴はず。初學知要

○光陰は惜むべし。逝水の如

し。顔之推

○日晷一たび移れば千年再び來らず。省譬録

○人生一たび死すれば萬古再び生ぜず。同

○善に習ひば日々に樂しむ。

君子訓

○惡に傚ひば日々に苦しむ。同

○惡にい趣き易し。慎むべし。同

○善にい進み難し。勉むべし。

同

○善を積む家には餘慶あり。易經

○不善を積む家には餘殃あり。同

○身を立るは學を勉むるを以て先とす。五種遺記

○學を勉むるは書を讀むを以て本とす。同

○書を讀むこと百遍なれば。其義自ら通ず。童蒙須知

○自ら敬すれば人も亦己を

敬す。讀書録

○自ら慢すれば。人も亦己を慢す。同

○吾が能に矜るい恥かり。畜德録

○吾が不能を飾るも亦恥なり。同

○明鑑は形を照す。往古は今を知る。孔子家語

○前車の覆るは。後車の戒なり。賈誼新書

○大なる過ちは。少しの忍びざるより起る。畜德録

○己が欲せざる所は。人に施すこと勿れ。論語

○君子は己に求め。小人は人に求む。同

○己を責むれば。身修まる。大和俗訓

○人を責めざれば。恨まるることなし。同

○惡は小なりとも。爲すこと勿れ。昭烈

○善は小なりとも。爲さざること勿れ。同

○過ぎたるは。及ばざるが如

開き不良

一。論語

○進むこと鋭き者は。退くこと速なり。孟子

菱潭書

小學修身課書巻一終

明治十五年四月廿五日版權免許
明治十八年四月九日四刻御届
明治十八年四月　出版發賣

編輯人　青森縣士族　南摩綱紀　麹町區富士見町二丁目廿七番地

出版人　東京府平民　栁河梅次郎　日本橋區本町二丁目十番地

製本發賣所　佐賀縣下佐賀郡白山町九十三番地

書肆　吉田庄藏

小學脩身課書

南摩綱紀編

二

K110.1
112
2